

# 「Vogue Pattern Book」にみる Fashion Design (1) : 1950年代の分析を基に

著者名(日)	宮武 恵子, 新田 彩乃
雑誌名	共立女子大学家政学部紀要
巻	59
ページ	47-65
発行年	2013-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1087/00002862/">http://id.nii.ac.jp/1087/00002862/</a>



# 「Vogue Pattern Book」にみる Fashion Design(1)

## － 1950 年代の分析を基に －

Fashion Design in 「Vogue Pattern Book」

—Based on analysis of 1950's—

宮武恵子・新田彩乃

Keiko MIYATAKE and Ayano NITTA

### 1. はじめに

ファッションは「流行」を意味する言葉である。流行は英語ではファッション (Fashion) といい、服飾<sup>1)</sup>についていわれることが多いとされている<sup>1)</sup>。流行を創るために何が重要であるのか。それは時代と共に、社会背景や人々の生活の指向が移行していくわずかながらの変化や大きな変化を敏感に反映しなければ現象を捉えることは出来ない。デザインと流行の関係については、デザイン<sup>2)</sup>された数多くの中から大衆に受け入れられたものがファッションになると論じられている<sup>2)</sup>。時代の方向性を具現化する事こそファッション・デザインと言えるのではないだろうか。

例えば、1918年に第一次世界大戦が終結すると、人々の考え方や生活様式が急速に変化していき、モダニズム<sup>3)</sup>文化への傾倒が促進される。そして時代が求める風潮を具現化した状況が流行現象となる。時代を反映する流行文化時代と換言できる。文化とは映画、音楽、芸術、被服<sup>4)</sup>等の人々の暮らしを背景に志向された生活形成の様式を意味している。服飾の流行を基盤とした文献では、10年単位 (ディケード = Decade) の時代の解釈は、次の流行を創造す

る上で不可欠の方法論となっている<sup>3)</sup>。毎年移り変わるトレンド<sup>5)</sup>のキーワード<sup>6)</sup>においても時代を表す言葉が頻繁に登場する。トレンド情報の発信源が数多くある中で、ファッション誌<sup>7)</sup>は重要であるとされている<sup>4) 5)</sup>。

1892年にニューヨークで創刊された「Vogue」は、世界的に最も広く名が知られ、息の長いファッション誌である<sup>8)</sup>。古賀令子は、1998年から「Vogue」誌100年にみる、ファッション情報の変容」と題して、ファッション誌が20世紀の被服の流行に果たした役割と相互関係を考察している。また、2006年には1960年代の服飾の流行等について、時代の背景と報道についての検証・考察を行っている<sup>7)</sup>。

本研究では共立女子学園図書館所蔵の「Vogue Pattern Book」を手掛かりに、1950年代の時代を写し出しているファッション・デザインを考察することを目的とする。ここで論じるファッションとは、被服に関する流行の様相として、服装<sup>9)</sup>やコーディネート<sup>10)</sup>等の全体の雰囲気やイメージ<sup>11)</sup>を表す服飾表現の言葉として用いる。調査は、1952年から1959年までの「Vogue Pattern Book」47冊を対象とする。

## 2. 「Vogue Pattern Book」の歴史的背景

「Vogue Pattern Book」とは、1892 年 12 月 17 日にアメリカ（ニューヨーク）で創刊された「Vogue」を基盤としたパターン・ブックである（図 1）<sup>8)</sup>。パターン・ブックとは定期的に発行される出版物で、「Vogue Pattern Book」「Simplicity Pattern Book」「McCall's Pattern Book」「Butterick Pattern Book」等が代表的なパターン・ブックとされている<sup>9)</sup>。パターンとは服飾用語では洋服の生地を裁断に使用する衣服の型を書いた型紙のことをさす<sup>10)</sup>。パターン・ブックは記載されている被服をスタイル画<sup>11)</sup>や写真で紹介し、読者は好みのものを選び、選んだものについている番号を申し込むと型紙が送られてくるようになっている<sup>11)</sup>。

「Vogue」は、Arthur Baldwin Turnure とその友人達により、出版社名を The Fashion Company として創刊された<sup>12)</sup>。250 名の株主は当時のニューヨークの社交界を代表する人々であった。雑誌は週刊で定価は 10 セント（週刊：1899 年 10 月 19 日号より \$3 に購読料改訂）で年間購読料は 4 ドルだった。4 ドルというのは雑誌の記事や広告を参照して分析を行った古賀によると、ほぼ革靴一足に相当する金額であるとしている<sup>13)</sup>。創刊の目的は社交界及びファッションとセレモニー<sup>14)</sup>等の情報提供であった。1909 年からはコンデナスト・パブリケーションズ（英：Condé Nast Publications）から発行されるようになり、現在ではフランス、イ

ギリス、イタリア等の多くの国で発刊されており、日本においても月刊誌として定着している。

創刊した時代はファッションショー<sup>15)</sup>や流行予測もない時代である。最新のファッションはパリで生まれ、パリこそが誰もが認める流行発信地であったとされていた時代である。「Vogue」はパリを訪れたことのない読者に、パリの流行に焦点をあてて世間に広く浸透させていくこととなる<sup>14)</sup>。パリの流行を知った読者はどのようにその情報を活用したのであろうか。既製服と称する洋服を大量生産するシステムは、19 世紀の終わり頃には稼働している。大量生産される衣服は概ね普段着として定番的な衣服に限られ、おしゃれな女性達は大抵がオーダーメイド<sup>16)</sup>の服を着ていた<sup>15)</sup>。では、好みの衣服を注文する際の伝達手段はあったのだろうか。形・素材・付属等の詳細を伝える方法はあるのだろうか。

「Vogue」がパターンを提供するようになったのは 1899 年からである。読者が雑誌の誌面から好きな洋服を選び、（図 2）<sup>16)</sup>のクーポン<sup>17)</sup>をはさみで切り取って 50 セントを支払うと、このサービスの発起人である Rosa Payne 女史から手作りの型紙が送られてくるというシステムだった<sup>17)</sup>。1899 年 2 月 23 日からスタートした「Vogue」のパターン特集は、第一回目のコーナーはスタイル画とディテール<sup>18)</sup>や素材についてのコメントが記載された「ルイ 16 世風



図 1 「Vogue pattern book」1952,53 年 12・1 月号の表紙と「Vogue couturier designs」48,49 頁 出典：引用・参考文献（8）

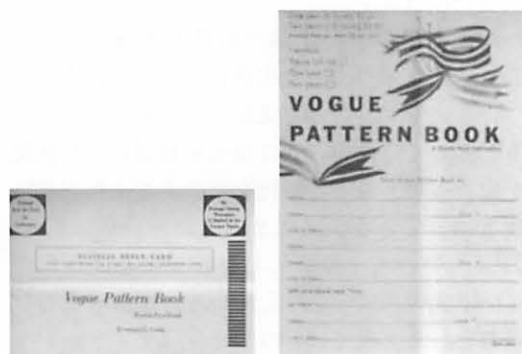


図 2 「Vogue pattern book」1952,53 年 12・1 月号のクーポン 出典：引用・参考文献（16）

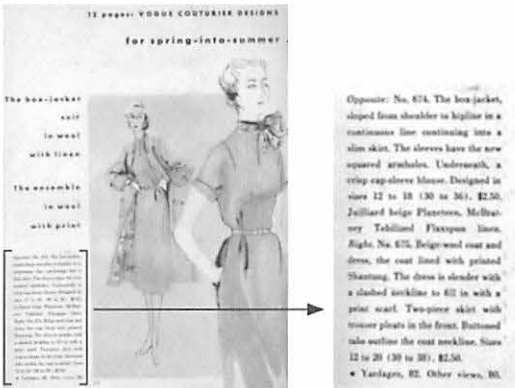


図3 「Vogue couturier designs」1952年4・5月号  
43頁 出典：引用・参考文献(20)

コート」であったという。第二回目以降は、多様なアイテム<sup>xvii)</sup>が取り上げられる。必ずしもホーム・ソーイング<sup>xviii)</sup>専用ではなく、服を仕立てに出す場合にも利用されたものとされている<sup>18)</sup>。1900年代に入ると型紙ビジネスが好調で、36サイズしかなかったサイズが32から44まで対応が可能になり、最新のアイテムの型紙が掲載されていた<sup>19)</sup>。「Vogue」のパターン部門の成長に合わせて「Vogue Pattern Book」についても、人々の要望があったのではないかと推測している。

1952年の「Vogue Pattern Book」の4・5月号では、「Make it cool...make it cotton」「Paris Original Models」「Vogue Couturier Designs」等、14項目に分類して編集されている。スタイル画と写真で構成されていて、それぞれにパターン・ナンバー<sup>xix)</sup>、「News for spring-into-summer」のような見出し、素材、アイテム、色、シルエット<sup>xx)</sup>、ディテール、サイズ、値段等の詳細が記載されている(図3)<sup>20)</sup>。

前述した疑問点については、このシステムを使えばホーム・ソーイングで自分好みの洋服を作ることは可能であり、それを参考にして注文服を購入できるということになる。



図4 クリスチャン・ディオールの代表的なスタイル  
出典：引用・参考文献(23)

### 3. クリスチャン・ディオールのコレクション

1950年代のファッションの世界に大きな変化をもたらしたデザイナーとして、1947年に最初のコレクションを発表したクリスチャン・ディオール(Christian Dior/1905年1月21日-1957年10月24日)をあげることができる<sup>21)</sup>。コレクションは服飾用語としては、各シーズン<sup>xxi)</sup>ごとにオートクチュール<sup>xxii)</sup>のクチュリエ<sup>xxiii)</sup>が創作して発表する作品<sup>xxiv)</sup>の集まり、さらにこれらの作品の発表会のことをさす。発表された作品はそのシーズンの流行になるとされている<sup>22)</sup>。

ディオールは、1947年にコロール(花冠)・ラインと名付けられた最初のコレクションを発表した。ほっそりした茎のようなウエストから大きなスカートが広がって花のように見えたことに由来する。丸みを持つなだらかな肩と細く絞ったウエストにロング・スカートを合わせたシルエットが特徴で、当時のファッション界に衝撃を与えた。このコレクションの代表的な作品(図4)<sup>23)</sup>を、アメリカの「Harper's Bazaar」誌の編集長Carmel Snowが“ニュールック”



オーバル・ライン (1951 年・春) チューリップ・ライン (1953 年・春) Aライン (1955 年・春)

図 5 クリスチャン・ディオールのラインの代表例 出典：引用・参考文献 (25)

と表現し、その名が歴史に残った<sup>24)</sup>。1950 年の春にはヴァーティカル (垂直)・ライン、秋にはオブリーク (斜線)・ラインと名称した二つのコレクションを発表した。1947～1957 年の間、毎シーズンごとにラインと名づけて新しいコレクションを発表することになり (表 1)、ラインと称した名称がマスコミに多数取り上げられて一般大衆にも受け入れられていくようになった (図 5)<sup>25)</sup>。

コロール・ラインの翌年に発表されたジグザグは、ディテールに特徴があるコレクションである。コロール・ラインを基にしたシルエットであり、ペブラム<sup>xxv)</sup>の飾りやスカートを重ねることでアシンメトリー<sup>xxvi)</sup>なディテールが提案されている<sup>26)</sup>。1949 年春のミッド・センチュリー (世紀半ば)・ルックでは、トップ<sup>xxvii)</sup>を柔らかくブラウジングさせてウエストを細いベルトでしめ、ボトム<sup>xxviii)</sup>には鉛筆のようにほっそりとしたシルエットのペンシル・スカートを合わせている。コロール・ラインのシルエットと同様にウエストは意識しているが、ボトムは膨らんだスカートから細身のスカートを合わ

せて、全体のシルエットが異なって見える提案をしている。ウエストを意識したシルエットは継続され、1950 年春の最初のコレクションは、ヴァーティカル (垂直)・ラインと命名された。布地をバイアス<sup>xxix)</sup>に扱い体型を意識して表現したという<sup>27)</sup>。1951 年春のオーバル (卵)・ラインでは、その名の通り丸みのあるシルエットを描き、初めてウエストを解放し、新たな女性らしさを表現した。次のコレクションで再びウエストは細くなり、1952 年春に発表したシニユアス (曲線的)・ラインは、プリーツ<sup>xxx)</sup>やセーターを使用し、ソフトでゆったりした印象となった。1953 年春のチューリップ・ラインは、さらにウエストを締めて、バスト、肩線、ヒップにボリュームを持たせた女性らしい丸みを強調したシルエットであった<sup>28)</sup>。翌 1954 年秋の Hラインではウエストは意識しながらも、バストのボリュームをなくし、すっきりとした細身のシルエットを打ち出した。バストのボリュームをなくした表現は、コロール・ラインの発表以来ディオールのコレクションには見られなかったものである<sup>29)</sup>。Hラインを発展させ、裾広

表1 クリスチャン・ディオールが発表したコレクションのライン

年代	シーズン	コレクション	特徴	
1947年	春	コロール・ライン (ニュールック)	Corolle line	ほっそりとした茎のようなウエストから、大きなスカートが広がって花のように見えるライン。ニュールックと名づけられる。
	秋	コロール・ライン (ニュールック)	Corolle line	“極端に走ったニュールック”とディオール自身が言う。スカート丈がさらに長くなり、多量の布地を使用。
1948年	春	アンヴォール	Envol	スカート丈は長いまま、パッスルスタイルのように後ろに張り出したり、動きのあるデザイン。
	秋	ジグザグ	Zig-zag	身頃にたっぷりとしたひだをとり、アシンメトリーを表現。
1949年	春	トロンプルイユ	Trompe l'oeil	目隠しを意味し、バストを大きくみせるための大胆なカットや折り返しをした。
	秋	ミッド・センチュリー・ルック	Mid-century look	トップをブラウジングさせ、ウエストをベルトで細く締めたデザイン。
1950年	春	ヴァーティカル・ライン	Vertical line	直線的なライン、タックやプリーツを多く使用。
	秋	オブリーク・ライン	Oblique line	幾何学的な斜線が特徴。アシンメトリーで強い目がらせん状に巻きついている。
1951年	春	オーバル・ライン	Oval line	卵型のライン。ウエストを開放させ、丸みをおびた女性らしさを持つ。
	秋	ロング・ライン	Long line	ハイ・ウエストでスカートはロングラインを強調するため長い。プリンセス・ラインともいう。
1952年	春	シニウス・ライン	Sinuuous line	曲線的なライン、体になじむソフトでゆったりとしたデザイン。
	秋	プロフィール・ライン	Profile line	シャープでボディーラインをくっきりと描くシンプルなデザイン。
1953年	春	チューリップ・ライン	Tulip line	ウエストは細くバスト、肩、ヒップが強調され、全体として曲線的なライン。
	秋	キューポラ・ライン	Cupola line	帽の広い襟型、丸みのある肩を強調。
1954年	春	リリー・オブ・ザ・ヴァレー・ライン	Lily of The Valley line	ディオールの愛称の花にちなんで名づけられた。プリーツスカートにセーラーカラーなどフレッシュさをもつ。
	秋	Hライン	H line	体の線を少し伸ばし、バストとウエストの距離を長くした細身のライン。
1955年	春	Aライン	A line	肩幅を狭くし、裾にいくにしたがって三角形状に広がるライン。
	秋	Yライン	Y line	全体的に細身で、トップがヴォリュームのあるデザイン。
1956年	春	アロー	Arrow	ハイウエストが特徴。キャラコと呼ばれるジャケットのラインを取り入れる。
	秋	エマン	Aimant	エドワード朝時代を思わせる、ロング丈のスカートやケープ、毛皮のストール使いをしている。
1957年	春	リーブル	Libre	男性用のヴァルーズ・ジャケットから着想を得た、ゆったりとしたデザイン。
	秋	フュゾー・ライン	Fuseau line	紡錘形のライン。ルーズ・フィット。











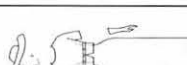
がりにしたシルエットを1955年春のAラインで表現した。肩巾を狭く、バストを平らにし、ウエストを僅かにくびれさせた<sup>30)</sup>。同年秋のYラインは基本的には細身でトップが重たいシルエットと定義されたが、Aラインほど簡単に見分けがつかなかった。V字型にあいた折り返しの襟をつけて、Yの上部の形に見せるなどしてYラインを表現した<sup>31)</sup>。1956年春のアロー(矢)・ラインでは、ベルトや短い薄地平織綿布のキャラコ・ジャケットと組み合わせることでハイウエストを強調させた<sup>32)</sup>。

(表2)<sup>33) 34)</sup>は、コロール・ラインを基点としてディオールの特徴であるシルエットの表現について示した表である。ウエストの表現の捉え方が重要であることが伺える。細いウエストが解放されたのは最初のコレクション発表から4年後のオーバル・ラインである。その後はウエストを意識した表現になる。バスト・袖・ヒップにボリュームを出し、ウエストの位置の上げ下げ、バストのボリュームを無くす、スカートの裾を広げる等の部分的な変化を加えてい

る。部分的な表現は組み合わせをすることにより、全体のシルエットやウエストが強調される等の見え方に影響を及ぼす。ディオールのコレクションはラインと名付けられたように、シルエットが重要な意味をなしている。特にシルエットを形成するためのウエストの表現に特徴がある。

ディオールは、偉大な創作面に加えて経営面でも躍進をした。1947年のコレクションの際にはアメリカのバイヤー<sup>xxxii)</sup>は18人しか来なかったが、一度ニュースが伝わるとその2、3倍の人がパリに来たとされ、それ以来毎シーズン2万5千人の訪問客を集めたとされている。ジャーナリストも新しいファッションを求める人々に情報を提供するために大勢来た。世界中から来たバイヤーは、最も売れそうな型見本を買ってコピー<sup>xxxiii)</sup>したとされている。アメリカの有名デパート、I・マグニンやバーグルフ・グッドマン、ヘンリー・ベンデル等が競って型見本を買って自分のところで作って売り出したという<sup>35)</sup>。

表 2 クリスチャン・ディオールのコレクションにおけるシルエット・ディテール等の変化の事例  
(コロール・ラインを基点として)

年代	コレクション名	1947年	1948年	1949年	1950年	1951年	1952年	1953年	1954年	1955年	1956年	1957年
		コロール・ライン	ジグザグ	ミッド、センチュリー・ルック	ヴァーティカル・ライン	オーバル・ライン	シニユアス・ライン	チューリップ・ライン	Hライン	Aライン	Yライン	アロー・ライン
	表現の軸	ウエストを意識し、部分的に変化させる表現	ウエストを意識し、部分的に変化させる表現	ウエストの解放	ウエストの解放	ウエストの解放	ウエストの解放	ウエストの解放	部分的な変化からウエストを意識した表現	部分的な変化からウエストを意識した表現	部分的な変化からウエストを意識した表現	部分的な変化からウエストを意識した表現
	ウエストの表現意識と位置	意識極めて細く	意識極めて細く	意識極めて細く	意識極めて細く	意識極めて細く	意識極めて細く	意識極めて細く	意識極めて細く	意識極めて細く	意識極めて細く	意識極めて細く
	ウエスト以外の特徴	スカート部分が大きく広がる	ペープラムやスカートを重ねてアシメトリー	細身のスカート	細身のスカート	細身のスカート	セーター等を使用しソフトな印象を出す	バスト、袖、ヒップにボリュームを出す	ウエスト位置を下げる ・バスのボリュームをなくす	ウエスト位置を上げる ・ボトム部分の裾が広がる	トップにボリュームを出す	短いジャケット
	全体のシルエット・トップ+ボトム	細く大きく膨らむ	細く大きく膨らむ	細く大きく膨らむ	細く大きく膨らむ	細く長く細く	細く長く細く	細く長く細く	細く長く細く	細く長く細く	細く長く細く	細く長く細く
	図											

出典：引用・参考文献 (33, 34)

ディオール自身もコレクションで成功をおさめてからすぐにアメリカ市場向け高級既製服ライン「Christian Dior New York」を手がける<sup>36)</sup>。アメリカ人の体型や気候にあわせて修正し、アメリカ市場へ本格的に進出していった。また、ディオール社はストッキング、ネクタイ等の服飾雑貨のライセンス契約<sup>xxxiii)</sup>を結び、ブランド<sup>xxxiv)</sup>・ビジネスを拡大させた<sup>37)</sup>。

ディオールはコピーに対し反対をしていたと言われ、コレクションを見に来るバイヤーに保証金（6万フラン）を支払わせ、服を発注すると保証金は仕入れ代金から差し引かれ型紙を購入できるようにした。その型紙には二通りあり、ひとつは布地による型紙でオリジナルの布地、ボタン、付属品に準拠し、ディオールの名前が記載されたラベルを貼ることができる。もう一方は、製造業者が布地と色合いなどを自由に選べる簡単な型紙であったという<sup>38)</sup>。しかし、こ

のようにコピーに対し様々な対策をとっても、他のデザイナーによってディオールのラインはコピーされる。言い換えれば、一般の人々が安い価格でパリの流行服を購入できるようになる。

アメリカの通信販売会社シアーズ・ローバックのカatalogにもコロール・ラインのシルエットの服が掲載されている<sup>39)</sup>。憧れの装いをしたい人々が入手可能な価格でディオールのデザイン表現が反映された服を購入できるようになり、流行として広まっていく事例として捉えることができる。

#### 4. 「Vogue Couturier Designs」におけるファッション・デザイン

「Vogue Pattern Book」47冊中35冊の編集項目の中から数多く登場している「Vogue Couturier Designs（1冊に付き平均約7頁）」

年号	ページ数	NO	パターン No.	アイテム	シルエット
1952 年 spring 号	42-49	1	666	スーツ	コロール・ライン
		2	665	スーツ (コート、ドレス)	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		3	664	スーツ、ブラウス	Hライン
		4	657	スーツ	Hライン
		5	661	スーツ、ブラウス	Hライン
		6	667	コート	Aライン
		7	668	ドレス	Hライン
		8	658	ドレス	Hライン
		9	660	ドレス	コロール・ライン
		10	662	ドレス	コロール・ライン
		11	663	ドレス	コロール・ライン
		12	659	ドレス	コロール・ライン
1952 年 4 - 5 月号	42-53	13	674	スーツ、ブラウス	Hライン
		14	675	スーツ (コート、ドレス)	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		15	676	スーツ	Hライン
		16	671	スーツ	Hライン
		17	666	スーツ	コロール・ライン
		18	669	スーツ (ドレス、ジャケット)	コロール・ライン
		19	673	ドレス	コロール・ライン
		20	672	ドレス	Hライン
		21	670	ドレス	コロール・ライン
		22	655	ドレス	Hライン
		23	678	ドレス	Hライン
		24	679	ドレス	コロール・ライン
		25	677	ドレス	コロール・ライン
		26	680	スーツ (ドレス、ジャケット)	Hライン
		27	681	ドレス	Hライン
		28	682	アンサンブル (コート、ドレス)	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
1952 年 6 - 7 月号	42-49	29	687	ドレス	コロール・ライン
		30	690	ドレス	コロール・ライン
		31	682	ドレス	コロール・ライン
		32	677	ドレス	コロール・ライン
		33	684	ドレス	コロール・ライン
		34	686	スーツ (ジャケット、スカート、ブラウス)	コロール・ライン
		35	689	ブラウス、スカート	コロール・ライン
		36	689	ドレス	コロール・ライン



共立女子大学家政学部紀要 第 59 号 (2013)

		37	688	スーツ (ドレス、ジャケット、ショール)	Hライン
		38	685	ドレス	Hライン
		39	670	コートドレス	コロール・ライン
		40	691	スーツ	Hライン
		41	683	スーツ	Hライン
1952 年 8 - 9 月号	32-37	42	695	スーツ (ドレス、コート)	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		43	696	スーツ、ブラウス	Hライン
		44	700	ドレス	Hライン
		45	694	ドレス	Hライン
		46	698	ドレス	コロール・ライン
		47	697	ドレス	Hライン
		48	699	ドレス	コロール・ライン
		49	693	ドレス	コロール・ライン
		50	707	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
1952 年 10 - 11 月号	30-37	51	712	スーツ	Hライン
		52	701	スーツ	Hライン
		53	710	ドレス	Hライン
		54	711	ドレス	コロール・ライン
		55	702	ドレス	Hライン
		56	709	ドレス	Hライン
		57	704	ドレス	コロール・ライン
		58	679	ドレス	コロール・ライン
		59	693	ドレス	コロール・ライン
		60	703	ドレス	コロール・ライン
		61	708	コートドレス	Hライン
		62	706	コートドレス	Hライン
		63	700	ドレス	Hライン
		64	705	ドレス	Hライン
1952、53 年 12 - 1 月号	54-59	65	717	ドレス	Hライン
		66	715	ドレス	Hライン
		67	710	ドレス	Hライン
		68	713	ドレス	Hライン
		69	703	ドレス	コロール・ライン
		70	693	ドレス	コロール・ライン
		71	714	スーツ	Hライン
		72	708	コートドレス	Hライン
		73	716	コートドレス	Hライン
1953 年 4 - 5 月号	42-51	74	737	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		75	738	ドレス	Hライン
		76	730	ドレス	Hライン
		77	734	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		78	735	スーツ (コート、ドレス)	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		79	741	スーツ	Hライン
		80	732	スーツ、ブラウス	Hライン
		81	739	スーツ、ブラウス	Hライン
		82	742	ドレス	Hライン
		83	733	ドレス	Hライン
		84	740	ドレス	コロール・ライン
		85	736	ドレス	コロール・ライン
		86	731	ドレス	コロール・ライン
		87	745	ドレス	コロール・ライン
1953 年 6 - 7 月号	44-49	88	746	ドレス	コロール・ライン
		89	748	ドレス	コロール・ライン
		90	751	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		91	743	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		92	747	ドレス	コロール・ライン
		93	750	ジャケット、ドレス	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		94	744	スーツ	Hライン
		95	749	ドレス	Hライン
		96	753	スーツ、ブラウス	Hライン
1953 年 8 - 9 月号	34-41	97	759	スーツ、ブラウス	Hライン
		98	754	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		99	752	ドレス	Hライン
		100	758	ドレス	Hライン
		101	755	コートドレス	コロール・ライン
		102	756	ドレス	コロール・ライン
		103	757	ドレス	コロール・ライン
		104	760	ドレス	コロール・ライン
		105	770	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
1953 年 10 - 11 月号	44-51	106	761	スーツ	Hライン
		107	765	コート	ストレートライン
		108	766	コートドレス	Hライン

「Vogue Pattern Book」にみる Fashion Design(1)

		109	763	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		110	762	ドレス	コロール・ライン
		111	768	ドレス	コロール・ライン
		112	769	ドレス	コロール・ライン
		113	764	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
1953. 54 年 12 - 1 月号	32-37	114	767	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		115	774	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		116	704	ドレス	コロール・ライン
		117	745	ドレス	コロール・ライン
		118	773	ジャケット、ドレス	コロール・ライン
		119	772	ドレス	コロール・ライン
		120	775	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		121	734	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		122	777	ドレス	Hライン
		123	776	ドレス	Hライン
1954 年 2 - 3 月号	28-33	124	783	スーツ、ブラウス	Hライン
		125	784	スーツ、ブラウス	Hライン
		126	781	ドレス	Hライン
		127	782	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		128	779	ドレス	Hライン
		129	785	ドレス	Hライン
		130	786	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		131	778	スーツ (ケープ、ドレス)	コロール・ライン
		132	780	ドレス	マーメイドライン
		133	794	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
1954 年 4 - 5 月号	30-37	134	793	スーツ、ブラウス	Hライン
		135	787	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		136	792	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		137	797	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		138	796	スーツ	Hライン
		139	799	ドレス	Hライン
		140	800	ドレス	コロール・ライン
		141	788	ドレス	コロール・ライン
		142	790	ドレス	Hライン
		143	789	ドレス	Hライン
		144	801	ドレス	Hライン
		145	791	ドレス	コロール・ライン
		146	795	ドレス	Hライン
		147	798	ドレス	コロール・ライン
		148	802	ドレス	コロール・ライン
1954 年 6 - 7 月号	36-41	149	803	ドレス	コロール・ライン
		150	804	ドレス	Hライン
		151	808	スーツ、ブラウス	Hライン
		152	805	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		153	807	ドレス	Hライン
		154	806	ドレス	Hライン
1954 年 8 - 9 月号	60-67	155	812	スーツ	Hライン
		156	783	スーツ、ブラウス	Hライン
		157	813	コート、スーツ	ストレートライン (コート)、Hライン (スーツ)
		158	811	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		159	809	ドレス	Hライン
		160	765	コート	ストレートライン
		161	810	ドレス	Hライン
		162	785	ドレス	Hライン
		163	814	ドレス	コロール・ライン
		164	760	ドレス	コロール・ライン
		165	814	ドレス	コロール・ライン
		166	760	ドレス	コロール・ライン
1954 年 10 - 11 月号	28-35	167	824	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		168	817	ドレス	コロール・ライン
		169	825	スーツ、ブラウス	Hライン
		170	819	スーツ、ブラウス	Hライン
		171	822	スーツ、ブラウス	Hライン
		172	826	ケープ、スーツ	Hライン
		173	818	ドレス	コロール・ライン
		174	820	コート	コロール・ライン
		175	821	ドレス	コロール・ライン
		176	816	ドレス	Hライン
		177	823	ドレス	Hライン
		178	815	ドレス	Hライン
1954. 55 年 12 - 1 月号	26-31	179	829	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		180	831	ドレス	コロール・ライン

共立女子大学家政学部紀要 第 59 号 (2013)

		181	832	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		182	810	ドレス	Hライン
		183	828	ドレス	Hライン
		184	833	スーツ	Hライン
		185	806	ドレス	コロール・ライン
		186	827	スーツ	Hライン
		187	830	コート	ストレートライン
1955 年 2 - 3 月号	32-37	188	834	ブラウス、スカート	ストレートライン
		189	837	スーツ (スーツ、ブラウス)	Hライン
		190	838	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		191	841	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、コロール・ライン (ドレス)
		192	840	ドレス	Hライン
		193	836	ドレス	コロール・ライン
		194	836	ドレス	コロール・ライン
1955 年 4 - 5 月号	36-43	195	839	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		196	846	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		197	842	スーツ	ストレートライン (ジャケット)
		198	855	スーツ (コート、ドレス)	プリンセスライン (コート)、Hライン (ドレス)
		199	844	スーツ (ジャケット、スーツ)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (スーツ)
		200	848	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		201	845	コートドレス	Hライン
		202	854	ドレス	Hライン
		203	849	ドレス	コロール・ライン
		204	850	ドレス	コロール・ライン
		205	851	ドレス	Hライン
		206	853	アンサンブル (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		207	843	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		208	852	スーツ	Hライン
1955 年 6 - 7 月号	50-55	209	847	スリーピース (コート、ジャケット、ドレス)	ストレートライン (コート・ジャケット)、Hライン (ドレス)
		210	861	スリーピース (ジャケット、スカート、ブラウス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (スカート・ブラウス)
		211	880	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		212	858	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		213	863	ドレス	コロール・ライン
		214	862	ドレス	コロール・ライン
		215	856	アンサンブル (ジャケット、ドレス)	Hライン
		216	859	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		217	857	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		218	865	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
1955 年 8 - 9 月号	38-43	219	868	ドレス	Xライン
		220	864	スーツ	Hライン
		221	855	ジャケット、ドレス	Hライン
		222	867	コート、スカート	ストレートライン (コート)、スカート (不明)
		223	842	ジャケット、スカート	ストレートライン (コート)、スカート (不明)
		224	862	ドレス	コロール・ライン
		225	866	スーツ (コート、ドレス)	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		226	876	ドレスコート	Hライン
1955 年 10 - 11 月号	34-39	227	830	コート、スカート	ストレートライン (コート)、Hライン (スカート)
		228	877	コート	ストレートライン
		229	872	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		230	869	スーツ	Hライン
		231	874	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		232	871	ドレス	コロール・ライン
		233	875	ドレス	Hライン
		234	870	ドレス	Hライン
		235	873	ドレス	Hライン
		236	800	スーツ	Hライン
1955、56 年 12 - 1 月号	34-39	237	869	スーツ	Hライン
		238	883	ドレス	コロール・ライン
		239	884	ドレス	コロール・ライン
		240	878	ドレス	Hライン
		241	885	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		242	881	コートドレス	Hライン
		243	879	ドレス	Hライン
		244	882	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
1956 年 4 - 5 月号	28-33	245	896	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		246	898	コート、ドレス	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		247	900	スーツ、ブラウス	Hライン
		248	897	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		249	902	スーツ、ブラウス	ストレートライン (スーツ)
		250	904	ドレス	コロール・ライン
		251	906	コートドレス	Hライン
		252	903	ドレス	Hライン

「Vogue Pattern Book」にみる Fashion Design(1)

		253	907	ドレス	Hライン
		254	905	コートドレス	Hライン
		255	901	コートドレス	Hライン
		258	893	ドレス	コロール・ライン
		257	899	ドレス	コロール・ライン
1956年6-7月号	42-51	258	909	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		259	912	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		260	918	ドレス	コロール・ライン
		261	911	ドレス	コロール・ライン
		262	910	スリーベース (ドレス、ブラウス、スカート)	コロール・ライン (ドレス)、Hライン (ブラウス・スカート)
		263	917	スーツ (コート、ドレス)	Aライン (コート)、Hライン (ドレス)
		264	916	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		265	914	ドレス	コロール・ライン
		266	908	ドレス	コロール・ライン
		267	887	スーツ	Hライン
		268	913	スーツ	Hライン
		269	919	ドレス	コロール・ライン
		270	915	スーツ (コート、ドレス)	Aライン (コート)、Hライン (ドレス)
		271	924	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		272	920	スーツ、ブラウス	Hライン
1956年8-9月号	34-41	273	932	スーツ (コート、ドレス)	Aライン (コート)、Hライン (ドレス)
		274	931	スーツ (コート、ドレス)	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		275	930	スーツ	Hライン
		276	929	スーツ	Hライン
		277	928	アンサンブル (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		278	927	アンサンブル (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		279	926	ドレス	コロール・ライン
		280	921	ドレス	Hライン
		281	922	ドレス	コロール・ライン
		282	925	ドレス	コロール・ライン
1956年10-11月号	24-29	283	923	コート、ドレス	Aライン (コート)、Hライン (ドレス)
		284	915	コート、ドレス	Aライン (コート)、Hライン (ドレス)
		285	936	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		286	932	スーツ、ブラウス	Hライン
		287	933	スーツ、ブラウス	Hライン
		288	930	スーツ	ストレートライン
		289	934	ドレス	Hライン
		290	921	ドレス	Hライン
		291	935	ドレス	Hライン
		292	933	スーツ、ブラウス	Hライン
1956、57年12-1月号	24-31	293	937	ドレス	Hライン
		294	928	アンサンブル (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		295	927	アンサンブル (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		296	938	ドレス	Hライン
		297	903	ドレス	Hライン
		298	906	ドレス	Hライン
		299	924	スーツ	Hライン
		300	913	スーツ	Hライン
		301	914	ドレス	コロール・ライン
		302	921	ドレス	Hライン
		303	938	ドレス	Hライン
		304	947	スーツ (コート、ドレス)	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
1957年2-3月号	42-49	305	946	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		306	944	ドレス	コロール・ライン
		307	942	ドレス	Hライン
		308	943	ドレス	コロール・ライン
		309	945	ドレス	Hライン
		310	933	スーツ	Hライン
		311	940	スーツ	Hライン
		312	915	コート、ドレス	Aライン (コート)、Hライン (ドレス)
		313	941	コート	Aライン
		314	939	ドレス	Hライン
		315	948	スーツ	Hライン
		316	908	ドレス	コロール・ライン
1957年4-5月号	40-45	317	937	ドレス	Hライン
		318	953	スーツ、ブラウス	ストレートライン (ジャケット)
		319	956	スーツ	Hライン
		320	952	コート、ドレス	Aライン (コート)、Hライン (ドレス)
		321	951	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		322	949	スーツ (コート、ドレス)	ストレートライン (コート)、Hライン (ドレス)
		323	955	ドレス	Hライン
		324	950	ドレス	コロール・ライン

1957 年 6 - 7 月号	56-61	325	954	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		326	968	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		327	966	ドレス	コロール・ライン
		328	962	ドレス	コロール・ライン
		329	959	ドレス	Hライン
		330	958	スーツ	Hライン
		331	960	スーツ	Hライン
		332	964	スーツ	Hライン
		333	970	スーツ	Hライン
		334	969	ドレス	Hライン
		335	965	スーツ	Hライン
1957 年 8 - 9 月号	50-55	336	979	スーツ (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		337	978	ドレス	Hライン
		338	977	ドレス	Hライン
		339	972	アンサンブル (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		340	971	ドレス	Hライン
		341	976	スーツ、ブラウス	Hライン
		342	974	スーツ、ブラウス	Hライン
		343	975	コート、ドレス	Aライン (コート)、Hライン (ドレス)
		344	973	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
		345	983	スーツ (ジャケット、ドレス)	コロール・ライン
1957 年 10 - 11 月号	30-35	346	981	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		347	980	ドレス	コロール・ライン
		348	982	ドレス	コロール・ライン
		349	984	アンサンブル (ジャケット、ドレス)	ストレートライン (ジャケット)、Hライン (ドレス)
		350	985	スーツ、ブラウス	Hライン
		351	965	スーツ	Hライン
		352	986	コート	Aライン
		353	941	コート	Aライン
		354	993	ドレス	Hライン
		355	992	ドレス	ストレートライン
1957、58 年 12 - 1 月号	54-57	356	979	スーツ (ジャケット、ドレス)	Hライン
		357	988	ドレス	Hライン
		358	987	ドレス	Hライン
		359	989	ドレス	Hライン
		360	991	ドレス	Hライン
		361	142	スーツ	Hライン
1958、59 年 12 - 1 月号	34-35	362	140	スーツ、ブラウス	ストレートライン (スーツ)

の情報を分析したのが (表 3) である。対象となったのは、35 冊、242 頁。スタイル画と写真を掲載順に番号をつけ、それぞれのパターン・ナンバーと読みとることができるアイテムとシルエットを記入している。全パターン数<sup>xxxv)</sup> 362 点の内、スタイル画が 334 点、写真で提示されているものが 28 点ありスタイル画が写真より多い。

#### 4 - (1) シルエットの特徴

1947 年に発表されたコロール・ラインの作品、1950 年にディオールが描いたとされているスタイル画、「Vogue Couturier Designs」のスタイル画と写真を比較する (図 6)<sup>40) 41) 42)</sup>。畑、宮澤は、Esquisse Silhouettes のスタイル画全 77 点についてシルエットの特徴等の分析を行い、そこに描かれているものは全てコロール・ラインであると提唱した<sup>43)</sup>。今回の分析においても、

コロール・ラインは継続的に提案されている (表 4-1) (表 4-2)。掲載されているスタイル画と写真では、コレクション作品よりスカート丈が短くなっている事例もある (図 7)<sup>44) 45) 46)</sup>。しかし細いウエストと大きく広がったスカートの基本的なシルエットに変化がないことから、コレクションが終わっても継続してパターンの需要があったと考えられる。時間を経てからも好まれたコロール・ラインは、コレクション作品からファッションとなった事例の一つなのではないだろうか。

シルエットのパターン数の内訳は、Hライン 179 点、コロール・ライン 114 点とウエストを細く絞った 50 年代を象徴するシルエットが多い (表 4-2)。Hライン<sup>xxxvi)</sup> のパターンは平均して多く扱われている。襟元やベルトなどに変化をつけながら体の線を長くとったシルエットは、1950 年代後半まで継続している (図 8)<sup>47) 48) 49)</sup>。



1947年に発表された  
ディオールのコロール・ライン



1950年に描かれたとされる  
ディオールのスタイル画



1952年「Vogue Couturier  
Designs」のスタイル画

図6 コロール・ラインの比較事例 出典：引用・参考文献(40、41、42)

表4-1 シルエットの分類とパターン数

年代	シルエット	パターン数
1952年	Hライン	38
	コロール・ライン	30
	ストレートライン	4
	Aライン	1
1953年	Hライン	23
	コロール・ライン	21
	ストレートライン	6
1954年	Hライン	33
	コロール・ライン	21
	ストレートライン	9
	マーメイドライン	1
1955年	Hライン	25
	コロール・ライン	14
	ストレートライン	17
	プリンセスライン	1
1956年	Hライン	28
	コロール・ライン	18
	ストレートライン	8
	Aライン	5
1957年	Hライン	31
	コロール・ライン	10
	ストレートライン	10
	Aライン	6
1958年	Hライン	1
	ストレートライン	1
合計		362(点)

シルエットの特徴は、1950年代に注目されていたディオールのコレクションの影響をうけて構成されていたのではないかと推測できる。

表4-2 シルエットの分類とパターン数

シルエット	パターン数
Hライン	179
コロール・ライン	114
ストレートライン	55
Aライン	12
マーメイドライン	1
プリンセスライン	1
合計	362(点)



1947 年・春  
クリスチャン・ディオールのコロール・ライン



1953 年 8-9 月号



1954, 55 年 12-1 月号

「Vogue Couturier Designs」のスタイル画

図 7 デイオールのコロール・ラインと「Vogue Couturier Designs」のスタイル画の比較事例  
出典：引用・参考文献 (44、45、46)



1954 年・秋  
クリスチャン・ディオールの H ライン



1954, 55 年 12-1 月号 1957 年 6-7 月号  
「Vogue Couturier Designs」のスタイル画



図 8 デイオールの H ラインと「Vogue Couturier Designs」のスタイル画の比較事例  
出典：引用・参考文献 (47、48、49)

## 4-(2) アイテム、ディテールの特徴

アイテム毎に集計した結果が(表 5-1)(表 5-2)である。全アイテムのパターン数は362点、ドレスが170点と多く、スーツが140点、コートが42点である。ドレスは胴衣の部分とスカートから構成される上下続きになったものとし、スーツはジャケットとスカート、ワンピースとコート等のような、ひとそろいの共布の衣服として必ず共布である事がスーツの条件としている<sup>50)</sup>。以下アイテム毎にディテールの特徴を含めて記述する。

ドレスは1952年から1957年まで平均して28点と、継続して提案されていたアイテムである。特に1952年はパターン数が43点と最も多く、コロール・ラインのシルエットが数多く使われている。ディテールの特徴は襟に見られる。襟有りのものと襟無しのもの比べると、170点中130点が襟無しのもので、胸前を深く切り下げたVネックやラウンド・ネック<sup>xxxvii)</sup>、ボート・ネック<sup>xxxviii)</sup>が多い。また、(図9)<sup>51)</sup> <sup>52)</sup> <sup>53)</sup>のようにVネックの深さが浅かったり、深かったり、襟のあき具合も様々な提案がある。同じくラウンド・ネックやボート・ネックについてもデザイン線の形状を変えて掲載されている。全体のバランス、シルエットと素材の関係を考慮して、襟のデザイン線等の細部に変化をつけて表現されている。

スーツはジャケットとスカート、ジャケットとドレス、コートとドレスの組み合わせで、ジャケットとドレスの組み合わせが140点中55点と一番多い。

コートは42点で、その中でコートドレスと判断できるものが13点ある。コートのように前あきになった、ボタンが裾まで付いているドレスである。一般のコートより体に沿い、単体のドレスとして着用する事も、さらに上からコートを羽織ることもできるアイテムである<sup>54)</sup>。襟付きのものが多く、フラット・カラー<sup>xxxix)</sup>、ショール・カラー<sup>xl)</sup>、テラード・カラー<sup>xli)</sup>など、様々な襟の形状が見られた。

他のアイテムはジャケットは4点、スリーピース<sup>xlii)</sup>は3点、スカートやブラウスのような単品<sup>xliii)</sup>は各1点ずつと、極めて少ない結果となった。単品とは他のアイテムとコーディネートすることにより、着装<sup>xliii)</sup>として完成する服種の事を称している<sup>55)</sup>。

表 5-1 アイテムの分類とパターン数

年代	アイテム	パターン数
1952 年	ドレス	43
	スーツ	22
	コート	6
	ブラウス	1
	スカート	1
1953 年	ドレス	25
	スーツ	20
	コート	3
	ジャケット	2
1954 年	ドレス	35
	スーツ	20
	コート	9
1955 年	ドレス	19
	スーツ	22
	コート	11
	ジャケット	2
	スリーピース	2
	ブラウス	1
1956 年	ドレス	24
	スーツ	27
	コート	7
	セット	1
1957 年	ドレス	24
	スーツ	27
	コート	6
1958 年	スーツ	2
合計		362 (点)

表 5-2 アイテムの分類とパターン数

アイテム	パターン数
ドレス	170
スーツ	141
コート	42
ジャケット	4
スリーピース	3
スカート	1
ブラウス	1
合計	362 (点)





図 9 「Vogue Pattern Book」に見られるVネックの事例 出典：引用・参考文献 (51、52、53)

アイテムの特徴についてはドレス、スーツ、コート、ジャケット、スリーピース等のアウターウェア<sup>xiv)</sup>の合計点数が360点、ブラウス、スカートの単品は2点。調査対象とした資料ではアウターウェアの提案が多いという結果に至った。

## 5. まとめ

以上のような分析結果を基に本研究の考察をすると2点に要約できる。

一つ目は、ファッション誌「Vogue」は、人々がパリの流行を知るための情報源として構成されていて、その情報を基に自分好みの衣服を身に着ける手段として「Vogue Pattern Book」のようなパターン・ブックを活用していたと推測できる。パリの流行はファッション誌等の媒体を通して人々の手にも届くようになり、最先端のコレクション作品の表現が広く伝えられていたと考えられる。

二つ目は、発表されるコレクションの中には流行の基点となるデザインがあると推測している。今回の分析結果はその事例と言えるのではないだろうか。1950年代を代表するデザイナーであるクリスチャン・ディオールの作品と「Vogue Pattern Book」の資料を比較して考察した結果から、コレクションで発表された作品の影響を強く受けていることが読み取れた。またそのシーズンだけではなく、継続して影響を受けていることも理解できた。特にコロール・ラインに代表されるシルエットについては顕著

な事例となった。

人々は、ディオールのコレクションが反映された「Vogue Couturier Designs」に掲載されたパターンを活用して、オーダーメイドやホーム・ソーイングによって作られたパリの流行服を身に纏いお洒落を楽しんでいたと考えられる。また、通信販売会社シアーズ・ローバックのカタログにもコロール・ラインのシルエットの服が掲載され、販売がされていたことから、広く供給されていたのではないかと考えられる。最先端のデザインが、百貨店、雑誌、カタログ等の様々な情報媒体を通し、人々が身近なものとして楽しめるファッションへ移り変わった。ここに、創意工夫しデザインされたものが人々に受け入れられ、ファッションとなる事例の一端を見ることができる。

今回の調査は、1950年代を対象として調査を進めてきたが、今後は1960年代以降の「Vogue Pattern Book」を通してファッション・デザインについて更なる研究を深めていきたい。その方法論として年代毎のファッション・デザインの特徴を含めた比較や時代背景等についても分析をしていきたいと考えている。

## 注

- i) 人体を覆う衣服と装身具の意。：伊藤紀之著「被服デザインの体系」三共出版株式会社 1983年6月10日 8頁
- ii) ある目的のもとに創意工夫し、その構想を具体的に示すこと。：i) に同じ 12頁
- iii) 近代主義の意。：新村出編「広辞苑 第二版」岩波書店 1955年5月25日 2189頁
- iv) 着装を目的として人体各部をおおい包む被覆物をさす。身につける全てをさす総合的名称の意。：i) に同じ 7頁
- v) 時代の潮流、傾向の意。：(株)パンタコムニュケーションズ「新ファッ

- ションビジネス基礎用語辞典〈増補改訂版〉光琳社 1985年6月20日 767頁
- vi) 鍵、主要となる言葉。: iii) に同じ 512頁
- vii) 渡辺明日香は「最新のファッション・トレンドの紹介を中心として、ライフスタイルの提案、カルチャー紹介、ライフプラン提案などを網羅し、それらをターゲットに合わせて編集した媒体」と定義している。: 渡辺明日香著「ストリートファッション論 日本のファッションの可能性を考える」産業能率大学出版部 2011年4月30日 12、138頁
- viii) 人間が被服を着装した状態の意。: i) に同じ 8頁
- ix) 装いの全てを統合すること。バランス良く組み合わせること。: 田中千代「服飾事典(増補版)」同文書院 1969年 282頁
- x) 心の中に思い浮かべる像、形象の意。: iii) に同じ 151頁
- xi) デザイナーが考えたデザインを絵姿として表現したもの。説明図的要素の強い絵である。: ix) に同じ 700頁
- xii) 儀式、礼式の意。: iii) に同じ 1257頁
- xiii) 新しい作品をモデルに着せて見せ、宣伝したり注文を取ったりする展示方法。: v) に同じ 950頁
- xiv) 注文服の意。: ix) に同じ 121頁
- xv) 切り取り式の券。会社の発行する商品購入券。: 三省堂編修所編「コンサイスカタカナ語辞典」株式会社三省堂 1996年10月1日 275頁
- xvi) 細部の意。: ix) に同じ 544頁
- xvii) 「品目」の意。: v) に同じ 894頁
- xviii) 家庭で裁縫をすること。
- xix) 本研究ではスタイル画や写真についている番号をパターン・ナンバーとしている。
- xx) 形、姿、コスチュームのアウトライン、あるいは外形をいう。同義語にラインという言葉があり、クリスチャン・ディオールは自作品それぞれの形態上の特徴をとって何々ラインと名付けた。: ix) に同じ 406、881頁
- xxi) コレクションが発表される1月下旬(春夏物)、7月下旬(秋冬物)の時期をさす。: v) に同じ 918頁
- xxii) パリ衣装店協会に所属している高級衣装店の意。: ix) に同じ 121、122頁
- xxiii) 店を持ち、毎シーズン店のコレクションのテーマを考え、それに基づく独創的なデザインを創作し、素材、色、柄を統合して企画し、その企画を製品化する権限を持つ男性の裁縫師の意。: ix) に同じ 218頁
- xxiv) 作者の意図が感じられるもの。デザイナーの作った服は作品とよばれるが、既製品となり、大量生産によって作られた場合は作品とは言わない。: ix) に同じ 327頁
- xxv) ウエストから下のフレアーの入った部分。: ix) に同じ 762頁
- xxvi) 非対称の意。: ix) に同じ 12頁
- xxvii) 服の上半身をさす。: ix) に同じ 586頁
- xxviii) 下半身に着用するものをさす。: ix) に同じ 978頁
- xxix) 「斜め」の意。: ix) に同じ 636頁
- xxx) 「ひだ」「折り目」の意。: ix) に同じ 734頁
- xxxi) 一定の利益確保を目的とした仕入れ活動を行うスペシャリスト。: v) に同じ 943頁
- xxxii) 「写し」「模写」の意。作者がデザインしたもの、すなわちオリジナルを模写製作したものをさす。: ix) に同じ

- じ 303 頁
- xxxiii) 「特許」「使用許可」をさす。製品に対して使用料が支払われる約束事。: v) に同じ 965 頁
- xxxiv) 「名柄、商標」の意。特定の商品やサービスを他の同種のものとは区別させるように付与する名称。: v) に同じ 953 頁
- xxxv) 本稿では「Vogue Pattern Book」に掲載されているスタイル画と写真の数、それぞれについている番号をパターン数としている。
- xxxvi) 本稿ではディオールの発表した H ラインの定義から分析を行ったため、ディオールのコレクション発表以前にも同シルエットに定義付けされるものについては、H ラインとして分類している。
- xxxvii) 丸い襟ぐりの意。: ix) に同じ 631 頁
- xxxviii) 横に長く、前後に浅い、鎖骨のカーブに沿って作られた船底型の襟あきの意。: ix) に同じ 631 頁
- xxxix) 平らな襟の意。襟付けから直接折返り、身頃に密着する襟。: ix) に同じ 180 頁
- xl) 肩かけをはおった様な形の長く伸びた襟の意。: ix) に同じ 175 頁
- xli) 男子服仕立てされた襟の意。: ix) に同じ 178 頁
- xlvi) 三つ揃いの意。: ix) に同じ 476 頁
- xlvi) 上下続きや上下セットでない、単独のものの意。: 文化服装学院編「文化ファッション体系 ファッション流通講座⑤ コーディネートテクニック アパレル編 I (商品知識)」文化学園教科書出版部 2000 年 4 月 1 日 21 頁
- xliv) 衣服を身につけることの意。: iii) に同じ 1292 頁
- xlvi) スーツ、ワンピース、ジャケット、

コートなど外側に着るもの。: xliii) に同じ 21 頁

# 引用・参考文献

- 1) 田中千代「服飾事典 (増補版)」同文書院 1969 年 897 頁
- 2) 伊藤紀之「被服デザインの体系」三共出版株式会社 1983 年 17 頁
- 3) シャルロット・ゼーリング「20 世紀のファッション」Konemann 1999 年
- 4) 山本ひとみ「ファッション・マーケティング研究におけるアドバタイジングの位置づけ」ファッションビジネス学会論文誌 Vol.8 2003 年 74 頁
- 5) 宮武恵子、川中美津子、菅原正博「ファッション・メディアにおけるコンテンツ表現・かわいい論を基盤として」ファッションビジネス学会論文誌 Vol.12 2007 年 50 頁
- 6) 古賀令子「“Vogue” 誌 100 年にみる、ファッション情報の変容 (1) 1890 年代 “Vogue” に見る 19 世紀末のファッション情報」湘北短期大学紀要 1998 年 149 頁
- 7) 古賀令子「“Vogue” に見る 1960 年代ファッション」ファッションビジネス学会論文誌 Vol.11 2006 年
- 8) Vogue Pattern Book December-January 1952-53 48、49 頁
- 9) 1) に同じ 649 頁
- 10) 1) に同じ 648 頁
- 11) 1) に同じ 648 頁
- 12) 6) に同じ 149 頁
- 13) 6) に同じ 150 頁
- 14) リンダ・ワトソン著、桜井真砂美訳「ヴォーグ・ファッション 100 年史」株式会社ブルース・インターアクションズ 2009 年 9 月 1 日 15 ～ 16 頁
- 15) 14) に同じ 16 頁

- 16) Vogue Pattern Book December-January 1952-53
- 17) 14) に同じ 17 頁
- 18) 6) に同じ 157 頁
- 19) 古賀令子「“Vogue” 誌 100 年にみる、ファッション情報の変容 (2) 1901 ～ 1913 年代 “Vogue” に見る 20 世紀初頭のファッション情報」湘北短期大学紀要 1999 年 106 頁
- 20) Vogue Pattern Book April-May 1952 43 頁
- 21) ゲルトルート・レーネルト著、黒川祐子訳「絵とたどるモードの歴史」中央口論美術出版 2012 年 205 頁
- 22) 1) に同じ 309 頁
- 23) 3) に同じ 260 頁
- 24) 深井晃子「パリ・コレクション モードの生成・モードの費消」講談社現代新書 1993 年 4 月 20 日 111 頁
- 25) ブリジット・キーナン著、金子桂子訳「クリスチャン・ディオール 1947 - 1957」文化出版局 1983 年 11 月 7 日 83 頁、103 頁、134 頁
- 26) 千村典夫「ファッションの歴史」平凡社 1969 年 8 月 10 日 62 頁
- 27) 26) に同じ 66 頁
- 28) 26) に同じ 72 頁
- 29) 26) に同じ 76 頁
- 30) 26) に同じ 78 頁
- 31) 25) に同じ 132 頁
- 32) 26) に同じ 82 頁
- 33) 26) に同じ 60、65、66、68、72、76、78、82 頁
- 34) 25) に同じ 48、90、138 頁
- 35) 田島由利子「ヴィンテージファッション」織研新聞社 2008 年 5 月 28 日 86 頁
- 36) 古賀令子「“Vogue” 誌 100 年にみる、ファッション情報の変容 (5) 1946 ～ 1960 年代 “Vogue” に見る 20 世紀初頭のファッション情報」湘北短期大学紀要 2002 年 6 頁
- 37) 成美弘至「20 世紀ファッションの文化史 時代をつくった 10 人」河出書房新書 2007 年 11 月 20 日 156 頁
- 38) マリー＝フランス・ボシュナ著、高橋洋一訳「クリスチャン・ディオール」講談社 1997 年 9 月 5 日 314 頁
- 39) 畑久美子、宮澤俊恵「クリスチャン・ディオールのデザイン画—1950 年の創作過程を探る—」共立女子大学 家政学部紀要 第 56 号 2010 年 1 月 25 頁
- 40) 25) に同じ 35 頁
- 41) Esquisse Silhuettes 1950 Christian Dior 共立女子大学所蔵
- 42) Vogue Pattern Book June-July 1952 44、46 頁
- 43) 39) に同じ 27 頁
- 44) 25) に同じ 35 頁
- 45) Vogue Pattern Book August-September 1953 49 頁
- 46) Vogue Pattern Book December-January 1954-55 28 頁
- 47) 25) に同じ 127 頁
- 48) Vogue Pattern Book December-January 1954-55 30 頁
- 49) Vogue Pattern Book June-July 1957 年 59 頁
- 50) 1) に同じ 592、436 頁
- 51) Vogue Pattern Book April-May 1952 47 頁
- 52) Vogue Pattern Book August-September 1952 36 頁
- 53) Vogue Pattern Book October-November 1952 32 頁
- 54) 1) に同じ 297 頁
- 55) (株)バンタンコミュニケーションズ「新ファッションビジネス基礎用語辞典〈増補改訂版〉」光琳社 1985 年 6 月 20 日 933 頁